

# お話遊び二つ

徳久智江子

氣候のよい頃に比較して、さうしても室内での遊びの多い此の頃、お話遊び等も又子供に喜ばれる事で御座います。

簡単な物であれば、始め少し先生が指導して下さいれば、後は子供同志で或は豚になつたりお婆さんになつたりして、幾日もく面白相に繰返して居ります。

それに用ひる色々のセットを皆で作るのも又一つの楽しみで、下手でも幼児の手で全部作りたいと思ひます。

私共の園で致しました中で、子供の喜びました物を左に二つ記してみました。歌詞も曲も全部自作で御座いますから、作曲上から見ると誤りの點もあるのではないかと存じます。適當に御訂正下さいます様お願ひ致します。

## 其の一 三匹の小豚

登場人物

赤い豚

赤いチョッキでも着て頭に正面向の豚のお面をつける。

白い豚

同様にして白いチョッキを着る。

黒い豚

黒いチョッキ。

狼

茶色のチョッキを着狼のお面をかぶる。

準備

藁の家

ボール紙に藁の家を書き幼児の椅子の片面につける。

木の家

木の家と同様ボール紙に書いて、椅子につける。

煉瓦の家

背景の山と木、ボール紙で作り裏から材木をつけて立つ様にする。



唱

赤い子豚 白い子豚

黒い子豚が三匹で

お家を建て様と考へた

一回前奏の間に三匹の豚は肩を組んで下手から出て来て正面に並び、そして次の歌の間は手を組んで首を左右にかしげ考へてゐる形

をして居る。

白「みんなでお家を立て様」

赤「ウン、作らう」

黒「何で作るの」

赤「僕は藁で作らう」

白「僕は木がいゝや」

黒「僕はれんがで作らう」

一同「さあはじめ様」

三匹はそれ／＼の家の所に行つて、トン／＼／＼たゞく様子  
をしながら段々に椅子をまわして晝の付いた方を向ける。(歌  
に合せて)その間に唱の人は左の歌を唱ふ。

唱 赤い子豚は藁の家

白い子豚は木のお家

黒い子豚は赤煉瓦

白豚「やあ お家が出来た」

赤豚「もう 雨が降つてもぬれないね」

黒豚「そうだよ 嬉しいなあ」

家が出来るよと狼がマーチに合せてノツソリ／＼出て来る。

唱 お山の／＼狼がのつそり／＼お散歩だ

豚「やあ 狼が来た／＼」

いそいで皆家の中にかくれる。

狼「おや／＼子豚がお家をたてたな、よし一ついちめてやら  
う」

藁のお家に行つて、

狼「トン／＼／＼子豚ちやん 僕も入れて」

豚「いや 狼さん又いちめるからいや」

狼「よし そんな事いふなら、こんな家吹き飛ばしてやるから」

豚「いやだよ／＼」

狼はフウ／＼吹きながら椅子の家をひつくり返し逃げる豚を

つかまへて、

狼「どれ／＼家へ置いて来やう」

と下手につれて行く。そして又木の家の所に行く、

狼「トン／＼／＼子豚ちやん こゝ開けて」

豚「いや、狼さんいちめるからいや」

狼「ようし、そんないちわるいふなら、こんな家吹き飛ばしちや

ふから」

豚「いやだよ／＼」

狼は又フウ／＼吹きながら家を引つくり返して豚をつかまへ

て

狼「よし／＼もう一匹つかまへたぞ」

と下手につれて行く。今度は煉瓦の家に行く、

狼「トン／＼／＼子豚ちやんこゝ開けて」

豚「狼さん いちわるするからいや」

狼「ようし そんな事いふなら、こんな家吹き飛ばしちやふよ

豚「いゝよ 吹き飛ばせるなら、飛ばして御らん」

狼「ようし フーツ」

と吹きながら椅子をガタ／＼させるが倒れないので一廻り周  
圍を廻つて来て、又、フウ／＼と吹く。

三匹の子豚

一のうた

ア カ イ コ ブ タ シ ロ イ コ ブ タ  
ク ロ イ コ ブ タ ガ サ ン ビ ギ テー  
オ ウ チ フ タ テ ヨ ト カ ン ガ ヘ タ

二のうた

ア カ イ コ ブ タ ハ ワ ラ ノ ウ チ  
シ ロ イ コ ブ タ ハ キ ノ オ チ  
ク ロ イ コ ブ タ ハ ア カ レ ン カ

終りのうた

ア カ イ コ ブ タ シ ロ イ コ ブ タ  
ク ロ イ コ ブ タ ト オ ホ カ ミ ト  
キ レ イ ナ オ テ ン キ ウ レ シ イ ヒ  
ミ ン ナ ナ カ ヨ ラ ナ リ マ シ タ

狼「あれツなか〜飛ばないぞ」  
又廻つては吹く、又廻つて来ては吹く。  
豚「狼さん、これは煉瓦の家だから飛ばないよ、もう降参したでせう」

狼「あゝもうへと〜だ こうさんしたよ」  
豚「ちや、僕のお兄さんを返してよ」  
狼「ウン、返してあげ様ね、今連れて来るからまつて〜ね」と下手に行つて二匹の豚を連れて来る。

黒豚「あゝ兄ちやん達が歸つて来た〜」  
と喜んではねて居る。  
狼「御めんね、もういちわるしないからこめんね」  
豚「ウン、これからは皆で仲よく遊ぼうね」  
狼「あゝ遊ぼう」  
唱、赤い子豚、白い子豚  
黒い子豚と狼と  
きれいなお天氣 嬉しい日  
皆仲よくなりました  
一同仲よく並んで唱つて  
終となる。

其二 お菓子の子

登場人物

子供 二人

きのこ 三人

お花 三人

小鳥 三人

お婆さん

唱歌隊 大勢

準備

お菓子の子の家、有り合せの衝立でも利用して片面だけの家を作る。ビスケット飴棒等を子供に書かせて切り抜いて貼る。

屋根は茶ホールに板チョコを書いたものをつける。ドアを一つ作る。

木 三本

きのこ 大小合せて五六本

草

どれも大きい積木にでもつけて立つ様にして置く。

赤い花一本 クレープペーパーで作る。

きのこの子供

運動帽の様な帽子を黄色い布で作る、

赤い玉を適當にはつて頭にかぶる。

お花の子供

クレープペーパーで大きい花を作り頭の上につける。



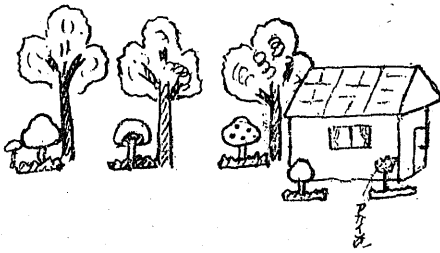
小鳥の子供

きのこの子供と同様な帽子を濃い茶の布で作り、目と嘴をつけてかぶる。

お婆さん

ホール紙で大きな鍵を作り、首から掛けて、適當に曲りのついた木の枝を杖にする。帽子はどちらでもよい。

子供二人 普通の服装



アト

幕が開く前に、きのこの人は萍の蔭に、小鳥は木の蔭にお花は草の蔭にかくれて居る。

お婆さんは家の中に、子供は家と反対側の舞臺の裏で待つ。

開幕

軽い音楽につれて、小鳥、花、きのこがそれらの場所から出て来る。(リズムに合せて)そして唱歌に合せて圓くなつて躍る。

お山のくそのおくに、…手をつないで軽い足で左にまはる。お菓子のお家がありました。…同様にして右へまはる。

お屋根は…両手を頭上にかけて三角の屋根の形を作り。板チョコ…其の手を左右に開き横に伸す。



柱は鉛心棒……両手を真直ぐ上に立てたまゝ自分の周囲を一廻り。

壁はカステラ……右足を上げ一つ飛ぶと同時に拍手一回。同様左足をあげて拍手一回。

ビスケット……繰返し。  
不思議なお家が……手をつなぎ中に入り、「お家が」で元の位置に戻り。

ありました。……拍手  
又軽い音楽で元の場所にかくれる。

子供達二人手をつなぎ、「お手々つないで」の唱を唱ひながら舞臺に出て来る。

男「あゝくたびれた」  
女「おなかへこへよ」

男「僕もだよ。オヤツ何だかいゝ匂がするよ」  
女「本當だ、おいしい相な匂ね」

二人でそこいらを探す、  
女「あッこゝにお菓子のお家があるわ」  
二人かけよる。

男「おいしいそうだな」  
女「これ カステラよ」

男「どれ〜（食べるまね）あゝおいしい」  
女「これ チョコレートだわ（食べる）あゝおいしい」

男（食べるまねをしながら）「あゝおいしい」

女（食べるまねをしながら）「あゝおいしい」  
夢中で食べて居る。

はつきりした音楽に合せて家の中からお婆さんが出て来る。  
一度舞臺の中央まで来てから、子供達を見付けて、子供のそばに行く。

婆「これ〜（少し大きく）これ〜」  
これは私の家だよ、子供驚いて飛びのく。

男「あッこれお婆さんのお家」  
女「ごめんさい、おなか、へこ〜だったから、食べちやつたの」

婆「あゝよし〜中にもつとおいしい御馳走があるから、おはいり」

男「本當、うれしいな」  
じや行かうよ」

女「えゝ行きませう」  
お婆さんに連れられて二人中に入る。

直にお婆さん出て来て、大きな鍵でガチャ〜と鍵をかける真似をする。

又前のマーチで舞臺の中央に来て、  
婆「やれ〜これはいゝ鹽梅だ、その間に一寸買物に行つて来やう」と下手には入る。軽いマーチに合せて小鳥、きのこ、花が出て来る。一列に並んで唱ふ。

唱  
さあ大變  
どうし様

お菓子のお家は

こわい家

もうどうしても出られない

次に言葉で

A「こまつたな」

B「どうし様」

C「かわいそうだね」

D「ひつばつて見様か」

一同「うん、ひつばつて見様」

小鳥やきのこ達ドアの方を向いて「こーとろく」の様にながつて、「ヨイシヨ〜」と引く真似をする。この間に唱歌隊

の一人獨唱

困つたなあ〜

押しても引いても 知らん顔

魔法のドアは知らん顔

きのこ等は引くのをやめて一同腕組をして首を曲げて考へて

居る。其の中に小鳥の一人急に思ひ付いた様に、

小鳥「ねえ、いゝ事 思ひ出したよ」

馳けて赤い花を取つて来る。

小鳥「この赤いお花で、三邊た〜くと開くんだつて」

一同「本當、じややつて見様」

小鳥の一人赤い花でドアをた〜く

小鳥「二つ」(とた〜く)

一同「トン」(と強く足ぶみ)

小鳥「二つ」(とた〜く)

一同「トン」前に同じ

小鳥「三つ」前に同じ

一同「トン」

急に愉快なマーチ、ドアが開いて子供が飛び出しスキップで小鳥達のまはりをはまる。小鳥やきのこは喜んで手をた〜きながら其の場所で飛ぶ。喜びの様子。

男女「どうも有りがたう」

小鳥達「よかつたね」

子供と小鳥達一緒に自由な方向に遊戯をする。

赤いお花で……………花でドアをた〜く形、

トン〜……………右足で強く床を三回打つ、

ドアは開いたよ……………自由方向に喜びの表現を、

不思議だな してスキップ

ドアは開いたよ……………スキップで飛びながら嬉しいな

列に並ぶ

全員で今一回此の歌を唱つて暮となる。

# お菓子の家

## 始めの唱

オヤマノ オヤマノ ソノ オクニ  
レカシノ オウチガ アリマシタ  
オヤネハ イタコ ハシラハ アメンボ  
カベハ カステラ チヨコイトー  
ラシギナ オウチガ アリマシタ

## きのこ達の歌

マ マン ドウシヨウ  
オカシオ オウチハ コワイウチ  
モウツ シテモ デラレナイ

## 獨唱

コマツタ ナー コマツタ ナー  
オシテモ ヒイテモ シランカホ  
マホーノ ドアハ シランカホ

## 最後の歌

アカイ オハナテ トン トン  
ドアハ ライタヨ フシギタ ナー  
ドアハ ライタヨ ウレシイ テー